

「イエス様と歩く道は」

ルカによる福音書 24：13-35
2023年4月16日

野村 友美 師

<見てるのに見えてない>

先週は、この礼拝堂で皆さんとの初めてのイースターをお祝いできて、本当に感謝でした。最初から最後まで喜びいっぱいのイースターだったんですが、実は個人的にひとつだけ「しまった！」と思うことがあったんです。何人かの方には、その日のうちに告白したのですが。聖餐式とか洗礼式といった聖礼典がある時に着ている牧師用の黒いガウン、あれをすっかり着忘れていました。忘れないようにと思って、クローゼットの目立つところにちゃんと掛けてあったんです。なのにあれこれ慌ただしくしているうちに、いつの間にかガウンのことを忘れてしまっていました。礼拝が始まって、この講壇の上にあがって、ようやく思い出した時には「あ！」って叫びそうでした。見てるのに見えてないって、まさにこういうことですね。あの時の私は緊張と慌ただしさに目を塞がれていたんだな、と改めて思います。まずあれをして、それからこれをして、あ、こっちも気になる、ああもう時間だ。そんな風に、自分の心の「そわそわ」に夢中になって、目の前にわかりやすく掛けてあるガウンを見てるのに見えてなかったんです。

今日の聖書の場面に登場する人たちも、この「見てるのに見えてない」を体験した人たちでした。

<エマオへの道で>

空っぽのお墓で天使たちがイエス様の復活を女性たちに告げ知らせた、ちょうど同じ日。2人の弟子たちが、エルサレムからエマオという村へ向かっていました。エマオがどこにあったのか、正確な場所は今はもうわからないそうです。60スタディオンは大体11kmぐらいですから、エルサレムからそんなに遠いところではなかったみたいです。クレオパという人と、名前が伝わっていないもう一人。この2人の弟子たちは、エマオに向かう道すがら、エルサレムで体験した出来事について、話し合いながら歩いていました。

イエス様の逮捕と十字架での処刑、そして仲間の女性たちから聞いたことについてです。今朝早くにイエス様のお墓に行ったら、そこにあるはずのイエス様の遺体が消えていて、天使たちが現れて「イエス様は生きておられる」と告げた。そんな不思議な話を聞かされて、彼らは混乱していたんでしょう。いったい何が起きているのかよくわからない。どうしてイエス様が殺されなきゃいけなかったのかもわからないし、消えたイエス様の遺体がどうなったのかわからない、本当に天使が現れたのかだってわからない。わからないことだらけで不安で、話し合わずにはいられなかったんだと思います。まるで迷子になったみたいな気持ちで話し合っていたクレオパたちに、1人の旅人が近寄ってきて、歩調を合わせて一緒に歩き始めました。

実はこの人こそ彼らの話題の中心人物、

イエス様ご本人だったんですが、2人の弟子たちにはその人がイエス様だとわかりませんでした。歩きながらあなたたちが話している、その話はいったい何のことですか？そう尋ねられて、2人は暗い顔になって立ち止まりました。もしかしたら、ちょっとイラッとしたのかもしれませんが。

メシアだ、イスラエルを救う王様だ、とみんなから期待されていたあのイエス様が、捕まえられて十字架で処刑されてしまった。この衝撃的な出来事は、もうエルサレム中の話題になっていたんです。だからエルサレムの方向から来たんだったら、2人の話を全部聞いていなくたって「イエス様」とか「十字架」とかの言葉で、何を話しているかぐらいわかるはずでした。エルサレムにいたのに、この大事件をあなたは何にも知らないんですか？そんな呑気な人はあなたただだよ！という苛立ちが、クレオパの返事には滲み出ています。でも彼らのイライラを受け流して、「どんなことですか？」とイエス様は質問なさいました。あなたたちが何を体験したのか、そのことをどう受け止めているのか。あなたたちが抱えているものを聞かせてほしい、話してごらん、とイエス様は迷える弟子たちに呼びかけておられるんです。

2人の弟子たちが抱えているもの。それこそが彼らの目を遮って、イエス様のことを分からなくさせていたものだったからです。この「遮られていた」と訳されている元の言葉は、「支配されていた」とか「捕らえられていた」という意味の言葉です。

クレオパたちの目を支配して捕らえていたのは、彼ら自身の思い込みでした。イエス様に対しての、そして自分たちの常識やイメージに対しての思い込みが、彼らの目をイエス様から遮っていたんです。

この時代、多くのイスラエル人たちは、自分たちの願望を叶えてくれるメシアのイメージを作り上げていました。神様の力でローマ帝国の支配を打ち破って、すべての国を神様に従わせる新しい王様。イスラエルを引っ張って、力強く戦う革命家。それが、人々が期待していたメシアでした。この2人の弟子たちも、そういうメシアのイメージに捕らえられていたようです。イエス様は行動にも言葉にも力がある預言者で、私たちはあの方こそイスラエルを解放してくださいと望みをかけていました。なのにイスラエルの指導者たちは、イエス様を十字架につけてしまったんです。「失敗した革命家のメシア」と「分からず屋の支配者たち」という自分たちのイメージで、2人はイエス様と十字架の出来事を説明しています。

弟子仲間の女性たちから聞いたイエス様の復活のことも、理解できない不思議な話としていかにも他人事で紹介しているだけです。自分たちの思い込みに目を遮られて、彼らはいま何が起きているのかも、目の前の人が誰なのかも、何も分からなくなっていました。もし、先にイエス様が「何でわからないんだ、わたしがイエスだ！」って名乗って彼らに無理やり分からせていたら、もっと話は早かったようにも思えます。

でもイエス様はそうなさいませんでした。無理やり分からせるんじゃないくて、わかっていない弟子たちに歩調を合わせて、一緒に歩いて彼らの話を聞くことを、イエス様はまずお選びになりました。そして、2人の目を遮っているものを辛抱よく外していかれたんです。ああ、物分かりが悪くて心が鈍くて、預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち！って何だかものすごく激しい言い方ですが、それだけの熱意を込めて、イエス様はこの2人の弟子たちに向き合っ、教えておられます。

そもそも聖書の預言者たちは、メシアについてどう言っているか。メシアは強い王様になるだけじゃなくて、こういう苦しみを受けて、それから栄光に入るはずだったじゃないか。そう言っ、イエス様は聖書が伝えていることを丁寧に教え始められました。メシアとは、イエス様とはいったいどういう存在なのか。神様はどういう思いで、どんな目的をもってイエス様を遣わされたのか。神様の民イスラエルを導いたモーセも、神様の言葉をイスラエルに伝えた預言者たちも、聖書全体がそのことを伝えているんだ、とイエス様はクレオパたちに語っておられます。

<イエス様と歩く道は>

目的地のエマオに近づくまで、2人の弟子たちはずっとイエス様の話を聞いていました。今、自分たちに教えてくれているこの人こそイエス様だ！とはまだわかっていませんが、それでもイエス様の話にすっか

り夢中になっていたようです。イエス様がエマオよりも先に進んでいこうとするのを、2人は必死で引き止めました。もっとこの人の話を聞きたい、と思ったんでしょう。もう夕方になるし、ここに泊まってもう少し私たちと一緒にいてください。そうねだっ、すがりつく2人に引き止められて、イエス様は彼らと一緒に泊まることになりました。そして彼らがイエス様と食卓を囲んだ時、決定的な瞬間がやってきたんです。まずお客さんだったはずのイエス様が、まるでその家の主人みたいにパンを手にとって神様をたたえる賛美の祈りを唱えて、パンを割いて弟子たちにお渡しになりました。十字架にかかれる前まで、いつも弟子たちとしていた食事の時みたいに。そう、いつもの食卓の光景の中で、2人の弟子たちは目を開かれたんです。奇跡的な出来事が起きたわけでも、神秘的な知識を授けられたわけでもありません。弟子たちが何か、特別なことを成し遂げたわけでもありません。いつもの生活の一場面で、ただイエス様に主人の役割をお任せしたその時に、弟子たちは、はっきりとイエス様の存在を認めることができたんです。

今、目の前にいるのはイエス様だ。そうわかった途端に、2人にはイエス様の姿が見えなくなりました。なのに彼らは慌てるどころか、興奮して話し合っています。イエス様が道で話しておられる時も、聖書を説明してくださった時も、わたしたちの心は燃えていたじゃないか！そう確認しあっ、彼らは喜んでるんです。姿が見えな

くたって、イエス様が一緒に歩いてくださる時、聖書の言葉で神様の思いを教えてください。私たちが心は神様の愛に燃えて、温められて力づけられるじゃないか。そのことがわかって、居ても立ってもいられなくなった2人は、すぐにエルサレムへと戻って行きました。嬉しくて、他の仲間たちにも早く伝えたくて、夜が明けのも待ちきれなかったんです。

彼らがエルサレムに戻ってみると、11人の使徒たちと他の弟子たちが集まって、イエス様が復活なさってシモンの目の前に現れた、と話しているところでした。新約聖書のコリントの信徒への手紙によると、このシモンはペトロだったようです。イエス様がペトロの前に姿を現された、その出来事の詳細はわかりません。とにかく、一番弟子のペトロにも無名の2人の弟子たちにも復活したイエス様は姿を現されました。誰がいつどこでイエス様に会おうか、誰も決めつけることはできないんです。よくわかってなくて、思い込みが多くて、目の前のイエス様にも気がつかない。そんな頼りない私たちにも、イエス様は出会ってくださいます。歩調を合わせて一緒に歩いて、私たちの声に耳を傾けて、その上でイエス様のことを、聖書が伝える神様の思いを、我慢強く教えてください。なかなかわからない私たちにも、日常のささやかな出来事の中でもイエス様はご自分の存在を示してくださいます。特別なことは何もないと思える場所で、聖書の言葉と私たちの生活を通して、イエス様は私たちの心をトント

ンとノックしていてくださるんです。

自分の理想とか、自分が思う正しさとか、常識だと思っていることとか、価値観に目を遮られて、一緒におられるイエス様を見失ってしまう時が誰にだってあります。物分かりが悪い！心が鈍い！って今まさにイエス様を嘆かせているかもしれない、と我ながら時々思います。それでもイエス様が一緒に歩いてくださっている時、聖書の言葉からイエス様が語りかけてくださっている時、私たちの心は神様の愛に燃やされて、温められて力づけられる。そう、あの2人の弟子たちが私たちに教えています。何気ないことで、いつもの生活の中で、イエス様を自分の主人とする時に、私たちは一緒にいてくださるイエス様を見つけられる。そう、あの2人の弟子たちが証明しています。

私たちといつでも一緒に歩いていてくださるイエス様の存在に、目を開き続けていることができますように。自分で自分に目を遮られて迷子になる時も、聖書が教える神様の愛に心を燃やされて、またイエス様に向き直ることができますように。

それぞれの生活の場所で、私たちがイエス様を主人としていいることができますように聖霊の助けを祈り求めながら、今日も一緒に送り出されて行きましょう。

お祈りいたします。